



2016年3月30日

国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター

第131号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 11人の研修生、2ヶ月間のグローバル地震観測コースを修了
- グローバル地震観測コース研修生代表挨拶
- 米国地球物理学連合2015年秋季大会
- 元研修生からの手紙

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

11人の研修生、2ヶ月間のグローバル地震観測コースを修了

国際地震工学センター 管理室長 山下 崇、上席研究員 芝崎 文一郎

平成28年1月19日に開始したグローバル地震観測コースの閉会式が、3月11日(金)、(研)建築研究所において開催されました。中国、エジプト(2名)、イラン(2名)、ミャンマー、ネパール、パキスタン(2名)、ソロモン諸島、スリランカからの11名の研修生が式典に参加し JICA と



閉会式

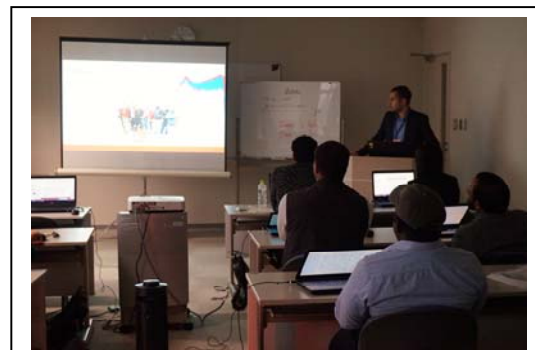
BRI/IISEE の修了書を授与しました。そしてイランのモーセン氏が研修生代表として挨拶をしました。(2ページ参照)

グローバル地震観測研修コースは、核実験に対する検証体制の確立へ向けた日本政府の貢献策の一つとして実施されています。研修生は主に包括的核実験禁止条約(CTBT)の未署名国と未批准国から来ています。

研修を通じて研修生は、CTBT 体制および国際監視制度(IMS)における地震学の役割についての知識を習得します。その他、核実験と地震を監視するための

グローバル地震観測技術および核実験と自然地震を識別するデータ分析技術について学びます。また研修プログラムの最後に、帰国後に実施するためのアクションプランを作成します。

アクションプランの発表会では、研修生が本研修で習った内容の研修を自国で開催する計画を提案しました。研修生には、日本で学んだ知識を同僚



アクションプランの発表

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

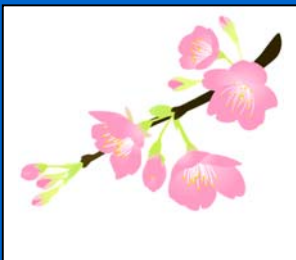
地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



にも紹介して頂けると嬉しいです。

さらに、グローバル地震観測やデータ解析に関する専門知識や技術は、各国において地震災害の軽減に役立ちます。この研修の実施に当たりまして、包括的核実験禁止条約機関(CTBTO)、外務省(MOFA)、国際協力機構(JICA)、気象庁(JMA)、関係の皆様にご多大のお世話になりました。本コースへのご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

グローバル地震観測コース研修生代表挨拶

Mr. Mohsen DEZVAREH RASANANI(イラン)

外務省軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課 横田直文 首席事務官

JICA 筑波 芳賀克彦 所長

建築研究所 坂本雄三 理事長

国際地震工学センター 横井俊明 センター長

講師の皆様 そしてご列席の皆様、

こんにちは、



Mr. Mohsen DEZVAREH RASANANI
(イラン)

2016年グローバル地震観測コ

ースの研修生代表として、この場で挨拶を述べることを光栄に思います。また感謝の気持ちをここにいらっしゃる皆様へ伝える機会をいただき御礼申し上げます。

私たちは、素晴らしい先生方から学ぶことに加え、お互いの知識を深めながら共有し、ここでの研修を修了しました。この2ヶ月は私たちにとって大変特別なものでした。この研修は、建築研究所の国際地震工学センターの先生方、気象庁、気象協会、包括的核実験禁止条約機関の専門家からなる優秀な講師陣と興味深い講義から成り立っています。すべての講義は我々の知識を高め、核爆発識別のための監視技術の見識を広めることができました。研修旅行先でも各種の専門家から更なる情報、知識を得ることができました。

日本での生活は忘れることができない体験です。この研修に参加することは、これまでにおいて最も素晴らしい経験となりました。この研修で私たちの関心を引いたのは、地震観測技術の向上により核兵器から我々の国民を守ることに貢献できる点です。

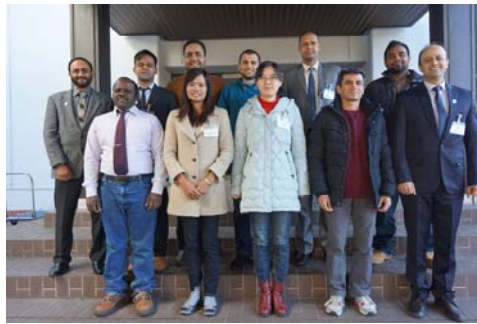
日本政府、外務省、JICA、国際地震工学センターそして建築研究所の皆様には、日本滞在中の温かな歓待、絶え間ない配慮そして快適な環境を与えていただいたことに心から感謝いたします。皆様のおかげでこのような素晴らしい研修への参加が可能になりました。皆様の支援、情熱と尽力なしではこの研修がこれほど価値のあるものにはならなかったと思います。

最後にこの素晴らしい国と友好的な人々が永遠に安泰で幸せであることを祈念いたします。

ありがとうございました。



楽しむのは今です。



グローバルコースの研修生



授業の様子

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願いします。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

バックナンバーは
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

米国地球物理学連合 2015 年秋季大会

国際地震工学センター 主任研究員 林田 拓己

2015 年 12 月 14 日から 18 日までの 5 日間にわたって米国サンフランシスコで米国地球物理学連合 (AGU) の秋季大会が開かれ、芝崎上席研究員と私の 2 名が参加しました。今回も 24,000 名を超える研究者が世界中からモスコーン・コンベンションセンターに集まり、地球物理学に関する 7,000 件以上の口頭発表、14,000 件以上のポスター発表が行われました。今回は 2015 年 4 月に発生したネパール・ゴルカ地震のセッションが開かれ、65 件にも及ぶ研究成果が発表されました。元研修生 (Lok Bijaya Adhikari 氏; 2002-2003 地震学コース、2013 年グローバルコース) が共著者となっている発表も 2 件ありました。また、最終日には 9 月にチリ・イヤペルで発生した地震 (M8.3) に関する緊急セッションも開かれました。滞在中のサンフランシスコは珍しく晴天が続き、ホテルから会場への移動など不自由せず快適に滞在することができました。



学会会場

研修生からの手紙

Faouzi GHERBOUDJ (アルジェリア) 2013-14 地震工学コース
元研修生から博士号取得の連絡がありました。

今後のご活躍をお祈りいたします。

論文題名 : スカラー/ベクトル確率論的方法による地震力の決定: アルジェリア北部への適用